

2011年(平成23年)12月22日 木曜日

精密金型の工場が新設される城山産業の第2工場
＝大垣市外野



城山産業

精密金型工場を新設

5月着工 大型、高精度化に対応

モーター用コア(電磁鉄芯)などを製造する城山産業(大垣市釜笛、竹中幸三社長)は、精密金型の工場を第2工場(同市外野)に新設する。「金型の大型化、高精度化に対応する」(竹中社長)のが狙いで、本社の精密金型工場を新工場に移転する。来年5月着工、2013年1月ごろの稼働を目指す。



竹中幸三社長

新工場は07年に開設した第2工場の敷地内に、周辺の土地も一部購入して整備する。鉄

骨平屋一部2階建て、面積は既存工場の約2・5倍に当たる約1300平方メートルを計画。本工場の設備を移設するほか、マシンングセンター、門型治具ボラーをそれぞれ1台増設する。

金型の大型化、高精度化のニーズが高まる中、プレス設備による振動の問題も同時に解消するため、移転、拡張を決めた。投資額は本社工場へのプレス機3台の増設も含めて約10億円を見込む。

同社はハイブリッド車、工作機械向けのモーター用コアの受注に加えて、船舶用の大型発電機のコアが業績をけん引。11年5月期の売上高は、過去最高だった1991年5月期に並ぶ6億1500万円を計上している。